



# ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 252  
March  
2014

## トピックス

### メンバー国との防災協力推進

台風「ハイエン」に係るフィリピン地方行政官向け人材育成・復興計画ワークショップを実施、50名超が参加

### ADRC客員研究員レポート

¶ ペマ・シンリー  
(ブータン)

¶ アリ・バクティアリ  
(イラン)

### お知らせ

アジア防災会議2014が開催されました(速報)

### Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通  
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540  
Fax: 078-262-5546  
editor@adrc.asia  
http://www.adrc.asia

© ADRC 2014

### ●メンバー国との防災協力推進

#### 台風「ハイエン」に係るフィリピン地方行政官向け人材育成・復興計画ワークショップを実施、50名超が参加

国際復興支援プラットフォーム (IRP) とアジア防災センター (ADRC) は2014年2月19～21日、フィリピン・セブ市において台風「ハイエン」後の復興計画ならびに次なる災害に備えるための「フィリピン地方行政官向け人材育成・復興計画ワークショップ」を実施しました。ワークショップ期間中は、フィリピン中部を襲った超大型台風「ハイエン」で被災した自治体への復興計画策定に係る専門的アドバイスを行うとともに、被災自治体の担当者が、防災・復興と持続可能な開発をリンクさせながら主体的に業務を推進できるよう、災害復興に係る世界各国の経験と教訓の提供を行いました。この手法は、平素からIRP/ADRCで採用・推進しているもので、長期的な観点によるレジリエンスの強化には、地方自治体における防災行政能力の向上ならびに気候変動対応策としての防災の推進、災害復興計画・長期的開発計画への防災の要素の取り込みなど多角的な面から推進すべきという考えから成り立っています。

参加者は、セブ州、レイテ州、サマール州、タクロバン市、パロ市、バゼイ市など台風被災地の州・市から50名を超える地方政府職員により構成され、大規模災害からの復旧、復興の方針について、議論を行うとともに、UNISDR-GETI (韓国にある国連ISDRグローバル教育・研修所) やフィリピン国防省市民防衛局、GIZフィリピン事務所の代表者とも意見交換し、中央・地方レベルを問わず、国内外での知識と経験を共有しました。とりわけ、国防省市民防衛局のロメオ・ファハルド副局長、同省市民防衛局のディナ・モランテ第7地区長、地元セブ州のマーク・トレンティーノ知事など本人から直接聞くことができた、政府レベルの復興政策については、参加者は一様に大いに刺激を受けたようで、IRPが推進している「よりよい復興」の概念や「復興ガイダンスノート」に掲載されている多様な切り口と併せて、復興の重要性を確認したところです。



今ワークショップの実施を受けて、今後、各参加者が所属する地方自治

## 続き

体では、防災関係者やコミュニティと共に復興計画がさらに練り上げられることとなり、ワークショップ参加者が中心となつてのワーキング・グループの立ち上げや、修正案の作成・策定、他部局への意見照会など精力的なアクションが予定されており、最終的には、各地方自治体の委員会での採択を経て、台風「ハイエン」復興担当官庁あてに提出、予算化の実現ならびに復興の加速化のための一助になることが期待されております。

ADRCならびにIRPでは、今後とも引き続き、防災面での人材育成や情報共有、次世代の災害に強い復興計画の策定、被災地への定期的観測に資する衛星利用など、日本が提供しうる支援策を展開していくとともに、フィリピンにおける次世代のための災害に強い国・地域づくりの実現に向けて積極的な国際貢献を行ってまいります。

この件についてのお問い合わせは、河内(kouchi@recoveryplatform.org)までお願いします。

## ●ADRC客員研究員レポート

### ペマ・シンリー（ブータン）

はじめまして。私はブータンから来ましたペマ・シンリーと申します。ブータンでは防災局で情報通信技術（ICT）および地理情報システム（GIS）の担当官として働いています。また、より効果的な災害対応、早期警報システム、人材能力等の制度等を検討する救援部署に在籍しています。

日本ではGIS、ICT、リモートセンシング（RS）の分野において、多くの専門家により様々な知見や経験を有しています。そのため、今回ADRCの客員研究員として選ばれたことは、大変光栄で幸運なことだと感じています。今回の研究を通じて、カンボジア、バングラディッシュ、イランから来日した他の客員研究員と共に学ぶことを大変楽しみにしています。私が日本に滞在する期間、防災および緊急対応の分野におけるGIS、RS、ICTの利活用について学び、得られた知識を自国に持ち帰り、有効的に役立てたいと思います。

地理的には、ブータンは世界でも活発な地震帯のひとつに位置しています。地震の他、ブータンにとっては氷河湖決壊洪水（GLOF: Glacial Lake Outburst Flood）が大きな課題となっていて、優先して検討すべき事項となっています。ここで述べたGLOFとは、近年の気候変動を伴った地球温暖化により、高地に位置するブータンの氷河が溶け、河川沿いに大規模な洪水を引き起こす現象です。他にも、地すべり、鉄砲水、暴雨、火事などが多くの自然災害が発生し、これら災害によって多くの貴重な人命や財産が奪われています。特に、これら災害の発生においては、地方での被害が顕著で大きな問題となっています。この点に関しては、ブータン政府は、計画開発に関する活動、社会および経済、人命への配慮を包含した災害リスク減少に関する計画の策定を、現在の主要な活動としています。

防災局の設立の経緯について説明します。私が所属する防災局は、かつて内務文化省における地方政府のひとつの担当部署でした。それまでは、災害管理に関するすべての活動は後手の対応になっていました。その後、効果的な災害管理の重要性が認知され、ブータン政府は2008年に防災局を現状の地位に格上げさせました。2013年初頭まで防災局は防災事業・活動に関連する政策決定・立案のガイドラインとして、国家災害リスク管理フレームワークに依拠しており、続いて2013年3月18日施行された、ブータン災害管理法により防災局の役割は、より明確になりました。

最後に、今回の機会を頂いたブータンおよび日本政府に感謝を申し上げます。



## アリ・バクティアリ（イラン）

はじめまして。私はイランから来ましたアリ・バクティアリと申します。イランでは現在、国家防災機関で上級専門家として働いています。それまでに災害リスク管理に関する国際および国家プロジェクトに従事した経験もあります。また2010年からはイラン科学大学で講師も務めておりました。国家防災機関での主な業務は、災害リスク管理に関連した国際的な協力事業で、例えば、災害管理に関する技術資料の提供や、訓練などを実施しています。これらの経験から、ADRC滞在中においては、国家および地方レベルの開発計画に関する研究を行いたいと思います。



それではイランの地理について紹介します。イランの南部にはペルシア湾およびオマーン湾が、北部にはカスピ海が面しています。面積はおよそ1,648,000平方キロメートル、世界では18番目に大きな国です。人口は2013年時点でおおよそ7,700万人です。周辺の国は、東側にはアフガニスタン、トルクメニスタン、パキスタン、西側はアルメニア、アゼルバイジャン、トルコ、イラクが面しています。このように、イランは多くの国々の国境が接している国です。

気候的には乾燥地帯（砂漠気候あるいはステップ気候）に属しています。地形的には多くの地域が山岳で、国の中心部は砂漠に覆われています。またイランはアルプス・ヒマラヤ造山帯に属し、世界でも屈指の地震発生地域になっています。このような地理的に理由によりイランでは地震が頻発し、また洪水、干ばつ、火事など他の災害が発生する国となっています。首都テヘランは国内で最も大きな街で、過去の大規模な地震により、大きな経済・社会損失の経験をしています。これにより、イランにおいては、地震対策は最も優先順位の高い対策事項となっています。

滞在期間中、他の研究員とともに、様々な研究機関および政府関連機関を訪問する予定です。阪神・淡路大震災、東日本大震災、他の大規模な震災の経験から、日本政府は地震災害に関連する計画を重ねて改定してきました。阪神・淡路大震災後、復興に関連する11の大きな再開事業が着手中され、10年の間に完了したとの話を聞きました。このような迅速な対応は、世界的にも大変驚くべき対応だと思えます。

最後に、今回の機会を頂いた日本およびイランの両政府に対しまして、改めて感謝を申し上げたいと思います。

## ●お知らせ

### アジア防災会議2014が開催されました（速報）

アジア防災会議2014が日本国政府、国連国際防災戦略事務局（UNISDR）及びADRCの主催により3月4日から6日にかけての3日間、東京に於いて開催されました。皆様の積極的なご参加によって、ACDR2014は成功裏に終了することができました。

詳細は次号（253号）で報告させていただきます。

([http://www.adrc.asia/acdr/2014\\_index\\_j.html](http://www.adrc.asia/acdr/2014_index_j.html))

### 問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は  
[editor@adrc.asia](mailto:editor@adrc.asia) までEメールをお寄せください。